

## 第7期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第7回全体会 議事概要

日 時 令和8年1月23日(金) 14:00~16:00

場 所 しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員 小林委員、毛受委員、郭委員、岩野委員、ゼヤー委員、松田委員、李委員、江副委員、金委員、  
タイン委員、藤岡委員、叔委員、鈴木委員、武田委員、立川委員、原田委員、マッラ委員、  
センブ委員、井上委員、塚本委員、南委員、守重委員、山口委員 23名

欠席委員 申委員、長谷部委員、楊委員、コチュ委員、陳委員、ドゥラ委員、朴委員、伊藤委員、宗像委員  
9名

### 1 開会

### 2 多文化共生実態調査の考察

桜美林大学ビジネスマネジメント学群 准教授 岩垂 好彦 氏から、令和5年度に新宿区が実施した多文化共生実態調査をもとに説明を受けた。

### 3 事務局からの情報提供

事務局から「しんじゅく多文化共生プラザ開設20周年イベント」「地域の交流事例」について説明を受けた。

### 4 意見交換

- ・人と人とのつながりが希薄になっている。コミュニケーションを取るのが難しい時代になっている。
- ・イベントは1つの方法だが、イベントをやっても、その後が続かない。
- ・災害は誰にでも起こるので皆さん関心がある。人と人とのつながりに防災といった切り口を入れるとよい。
- ・岩垂先生の話聞いて、新宿区はインターナショナルな区なので、人と人が混じり合えば多文化共生のよいモデルケースになると感じた。
- ・ニュースで新宿区のはたちのつどいの参加者の約半数が外国人と聞いて驚いた。留学生が多いので納得した。
- ・地域センターまつりは毎年開催されているので認知度があるが、単発のイベントは周知に工夫が必要である。
- ・大久保まつりの韓服のパレードには、日本人の学生が参加している。日本と韓国の交流の機会となってよかった。
- ・日本で中長期的に生活するためには、住居や保険、金融、医療など様々な問題がある。
- ・外国人は仕事やアルバイトで忙しく、地域の交流に参加したくても参加できない人がある。
- ・インターナショナル事業者交流会では、住宅展示場を会場にして交流イベントを開催している。
- ・インターナショナル事業者交流会では、参加している外国人も日本語で会議を行っている。日本語が分かる外国人が増えるとよい。
- ・外国から日本に来て生活していると、日本は優しく受け入れてくれる国だと感じる。
- ・日本に恩返しするために地域のボランティア活動をしている。母国も大事だが、今住んでいる日本も大事である。
- ・多文化共生のためには、外国人が町会に参加するように力をいれるとよい。
- ・外国人には、日本に来てよかったなと思っていただけるとよいと思っている。
- ・しんじゅく多文化共生プラザを介して、個人が様々な活動に参加できるようになるとよい。

5 その他

6 閉会